

いく し ろ 戦さと城 ～池田家文庫絵図展～

平成 18 年 10 月 26 日(木)～11 月 12 日(日)

開館時間: 午前 10 時～午後 6 時 (入場は午後 5 時半まで)

休館日: 10 月 30 日 (月)・11 月 6 日 (月)

会場: 岡山市デジタルミュージアム

入場料: 無料

主な展示品: 信長記 (重要文化財)・関ヶ原合戦之図・島原戦地之図ほか

ワークショップ・講演会 平成 18 年 11 月 4 日 (土)

予約不要／参加費無料

10:30～12:00 ミュージアムジュニア講座・ワークショップ

「備中高松城水攻めワークショップ」

会場: 企画展示室

13:30～15:00 記念講演会『長久手合戦図屏風』の世界

講師: 高橋修氏 (茨城大学人文学部教授)

会場: 講義室

主催: 岡山大学附属図書館 岡山市デジタルミュージアム

<お問合せ先>

岡山大学附属図書館

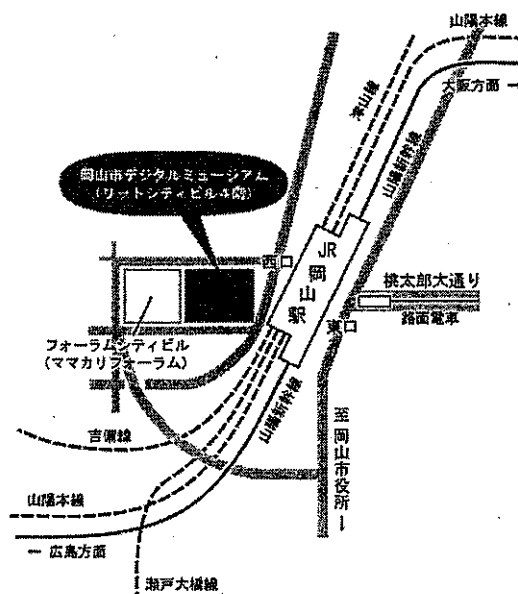
電話: 086-251-7322 (担当 参考調査係)

<http://www.lib.okayama-u.ac.jp>

岡山市デジタルミュージアム

電話: 086-898-3000

<http://www.city.okayama.okayama.jp/dm/>



【解説】

戦国から「徳川の平和」へ

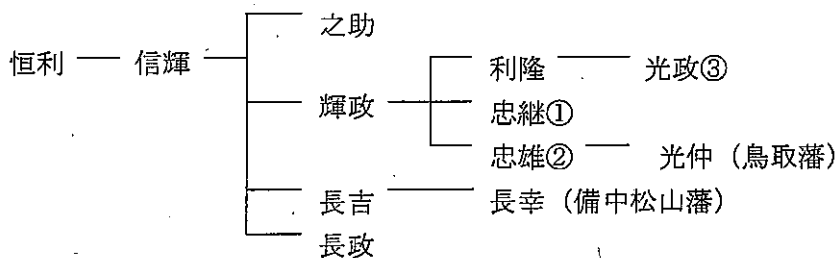
今から500年ほど前の戦国時代は、各地で戦さが繰り広げられていた。大名から僧侶・庶民までが武器を持ち、城を築き、みずからの土地や利権を守るために戦った。その戦いに勝ち残った武士たちが、江戸時代の支配者になった。

戦国の時代を終わらせ天下を統一したのは、豊臣秀吉である。しかし、朝鮮出兵の失敗と秀吉の死を機に、豊臣政権は分裂、関ヶ原での天下分け目の戦さになった。これに勝利した徳川家康は江戸に幕府を開き、2度の大坂の陣で豊臣氏を滅ぼした。その後3代将軍徳川家光の時期に、島原の乱が起きる。これが武力で鎮圧された後は、国内では大規模な戦闘は起こらず、200年間にわたる「徳川の平和」が訪れた。

池田家と合戦

池田家は、美濃国（現岐阜県）出身の土豪と言われている。天下統一をめざした織田信長・豊臣秀吉・徳川家康に仕えて頭角をあらわし、さまざまな戦闘に参加した。そのなかで次第に成長し、姫路城主として52万石を領有する大大名になった。

【池田家略系図】（丸数字は岡山藩主の代数）



池田氏が織田家に仕えたのは、恒利の時からである。子の信輝は、織田信長の家臣として桶狭間合戦など各地の戦闘に参加した。元亀元年（1570）、天下統一をめざす信長は、越前の朝倉義景、近江の浅井長政と戦った。いわゆる姉川合戦である。信輝は、二番手を命じられ、手傷を負いながら、大いに戦功をあげた。この戦さには、信輝長男の之助も13歳で初めて参加している。このころ信輝は、信長から尾張犬山城を与えられ、大名への道を歩み始めた。

天正3年（1575）信長は長篠合戦で武田勝頼を破った。鉄砲隊が威力を発揮した戦闘として有名だ。この時信輝は、滝川一益・柴田勝家とともに「中之先」を勤めている。「右之先」は徳川家康、「左之先」は佐久間信盛であった。天正8年（1580）信長は荒木村重を滅ぼした。その花熊合戦に、輝政が16歳で父・兄とともに参加し、功名をあげている。2年後の天正10年（1582）、本能寺の変が起こり、信長は志半ばに亡くなった。

信長の跡を継いだ豊臣秀吉は、織田信雄と結んだ徳川家康と対立し、両雄が直接戦うことになった。いわゆる小牧・長久手合戦である。秀吉に味方した信輝は、一番手となって徳川の本拠である三河を攻めたが、逆に長久手で徳川勢に後方を攻められ、子の之助とともに戦死した。この合戦の後、秀吉は家康と和睦する。池田の家督は次男の輝政が継いだ。

天正18年（1590）秀吉は小田原城に北条氏を攻め、滅ぼした。これによって、天下統一が実現した。小田原攻めの後に輝政は東三河四郡15万2000石を与えられ、吉田（現豊橋）に在城、吉田侍従と呼ばれた。その後、家康の二女富子（良正院）を継室に迎えたこともあって、徳川家との結び付きが強まった。なお、秀吉の朝鮮出兵の時には、輝政は肥前名護屋への物資の輸送などを担当し、出兵は命じ

られなかった。

関ヶ原から島原まで

慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いで、輝政は家康に従って会津の上杉景勝を攻め、その後取って返して岐阜城攻撃に参加、大いに戦功をあげた。そのため戦後には、播磨国52万石余を与えられ、姫路に在城することになった。さらに慶長8年（1603）には輝政次男の忠継に備前国が与えられ、慶長18年（1613）輝政が死ぬと、姫路城は長男の利隆が受け継いだ。

慶長19年（1614）・元和元年（1615）の大坂冬の陣・夏の陣では、利隆が大軍を率いていち早く参加した。その後、元和3年（1617）に利隆が亡くなり光政が跡を継いだ。幼少であったため因幡・伯耆両国32万石を与えられ、鳥取に転封となった。他方、備前国は、忠継の死後は輝政の三男忠雄に与えられていたが、寛永9年（1632）忠雄が亡くなると、子の光仲が幼少であったため、同族の光政との間で国替えが行われ、光政が岡山藩主となった。

寛永14年（1637）、領主の苛政とキリスト教弾圧に抗議して、天草・島原地方の農民が蜂起した。中心となったのは、立帰ったキリシタンたちであった。かれらは、富岡城や島原城を攻めた後、原城に籠もった。幕府は九州地方の大名に大軍を派遣させ、これを攻めた。当時江戸にいた池田光政は国元に指示を出し、幕府役人の渡海を助けるために藩船を大坂に派遣させたり、島原に情報収集のための使者を送ったりした。翌年2月原城は落ち、多くの籠城者がなで切りにされた。これを機に幕府はポルトガル船の来航を禁止し、いわゆる「海禁」体制をとることになった。

戦さと城の絵図

江戸時代には、戦国時代以来の戦闘や戦場、城郭を描いた絵図が作成された。池田家文庫にも、そうした絵図が多数残されている。それらは、作成の目的や関心からみて、次の4つのタイプに分けることができる。

1つは、戦陣や戦闘の様子を後代に伝えるための記録として作られたもの。こうした絵図は、先祖の功績をたたえたり、家の歴史を伝えるために、後の人によって作られる場合が多い。そのため、誇張や作為が加えられることもある。同じような記録には、文字で書かれた軍記物語や家譜、絵画による戦陣図屏風などがある。戦陣絵図は、内容的にも視覚的にも、文字と絵画の中間といった性格だろう。池田家文庫では、池田家が過去に関わった戦さや城が主に取り上げられることになる。

2つは、戦場や戦闘を直接に見聞した人がそれを第三者に伝えるために書き付けたもの。これは、同時代の一次史料となるものだが、その実用性のために簡略な描写のものが多い。池田家文庫では、島原の乱の際に光政が派遣した使者のもたらした絵図があり、貴重な史料となっている。

3つは、兵学・軍学の学習や教授用に作られたもの。江戸時代には、甲州流の軍学（小幡流・北条流・山鹿流などに分かれた）が盛んであったから、武田信玄に関わった戦闘が例として取り上げられることが多かった。ただし、図上で理論を確認するためのものなので、実際とはかけ離れており、描写も概念的である。兵学では城郭の縄張りも研究の対象であった。そのために、実際の城の縄張りを写したり、理想の縄張りを創作したりすることが行われ、その図が残された。

4つは、地誌としての戦場図や城郭図。江戸時代の中頃以降、地域の文物を網羅的に記録した地誌が作られるようになるが、そのなかには必ず古戦場や古城跡が取り上げられた。それを絵図化したものが、このタイプの絵図である。ただし、図像としては、1つ目の記録としての絵図や3つ目の兵学用絵図と同じようなものになりやすい。

さまざまなタイプの戦陣絵図や城郭絵図を比べて見ることで、江戸時代の人びとの戦さや城に対する関心のあり方について考えることができるだろう。

【展示品リスト】

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 信長記 | 23 肥前島原戦地之図 |
| 2 江州姉川合戦絵図 | 24 肥前島原戦地之図 |
| 3 尾州犬山城ノ図 | 25 肥前国富岡城図 |
| 4 家中諸士家譜五音寄タ・チ | 26 丹羽良造奉公書 |
| 5 池田恒興宛織田信長朱印状 | 27 家中諸士家譜五音寄ナ |
| 6 長篠合戦之絵図 | 28 備前国和気郡天神山古城図 |
| 7 家中諸士家譜五音寄ハ | 29 備前国御野郡原村舟山城図 |
| 8 長久手合戦ノ図 | 30 御野郡ミノ村ツル古城之図 |
| 9 長久手古戦場之図 | 31 川中島合戦図 |
| 10 参州吉田御城図 | 32 信州戸石合戦之図 |
| 11 関ヶ原合戦之図 | 33 相州三増合戦之図 |
| 12 関ヶ原合戦図 | 34 武州深谷古城図 |
| 13 吉田侍従宛徳川家康書状 | 35 武州深谷古城図 |
| 14 池田家履歴 三 | 36 武州フカヤ古城之図 |
| 15 大坂冬御陣図 | 37 齊輝君御分西海道城々図 |
| 16 大坂夏御陣図 | 38 肥前島原城図 |
| 17 大坂夏御陣図 | 39 御制城図 |
| 18 大坂城図 | 40 十城図・城図解 |
| 19 池田利隆宛戸川達安書状 | |
| 20 松平新太郎宛年寄衆連署奉書 | |
| 21 松平新太郎宛徳川秀忠黒印状 | |
| 22 島原戦地之図 | |

池田家文庫絵図展

戦と城

会期：平成 18 年 10 月 26 日（木）～ 11 月 12 日（日）

休館：平成 18 年 10 月 30 日（月）／ 11 月 6 日（月）

時間：午前 10 時～午後 6 時（入場は、午後 5 時 30 分まで）

会場：岡山市デジタルミュージアム

展示品目：信長記（重要文化財）、他 39 点

入場無料

関連行事

開催日：平成 18 年 11 月 4 日（土）

会場：岡山市デジタルミュージアム

予約不要／参加無料

10:30 - 12:00 ミュージアムジュニア講座・ワークショップ

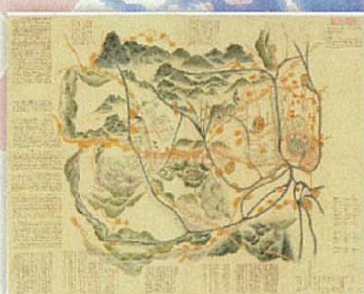
- ▶ 「備中高松城水攻めワークショップ」
- ▶ 企画展示室

13:30 - 15:00 記念講演会 「「長久手合戦図屏風」の世界」

- ▶ 講師：高橋修氏（茨城大学人文学部教授）
- ▶ 講義室



T12-9 長篠合戦之絵図



T12-31 関ヶ原合戦之図

会場案内図

岡山市駅元町 15-1
(JR 岡山駅西口前)



主催



岡山大学附属図書館

電話：086-251-7322

URL：www.lib.okayama-u.ac.jp



岡山市デジタルミュージアム

電話：086-898-3000

URL：www.okayama-digital-museum.jp